

し、住宅の建築をと呼び

かけをしたが、いずれも具現化しなかった。今後空き家対策、既存の町営住宅管理上の問題などを含めて検討する。

乗り入れたために、すれ違いにも危険で一時は大渋滞となった。特に女性ドライバーから悲痛な苦情が殺到した。現状では迂回路としては非常に危険であるため、県に強く早期に改良するよう働きかけを。

岩崎憲郎町長

今回の災害対応ではさまざまな課題があったが、その一つに迂回路の問題がある。県に対して改良の促進を求める。

若者定住住宅の建築

一般質問

問 若者定住の住宅建設計画は
答 空き家対策など検討する

三谷幸一郎議員

先般町内の若者が結婚をし、町内に新居をと町内をくまなく探したが、残念ながら町内には住宅はなく、仕方なく町外に住宅を求めざるを得なくなった。仕事も町内なので残念でならないと怒りにも似た話を聞いた。せっかく町内に住みたいと言っている若者がみすみす町外へ住宅を求めて出て行かざるを得ないとは、誠に口惜しいことである。増田リポートでも指摘しているように、若者定住策を実行しなけれ

ば全国の約半分の86市町村が近い将来消滅してしまつたのである。町長は再三「地球がなくなるまで大豊町は現存し元気にしていこう」と言つたが、若者定住のため、仕事と共に住宅も真剣に本腰を入れて取り組まないと、大豊町も消滅する運命をたどることになる。一人でも多く大豊に若者が定住し、家族をもち子孫繁栄をしてもらうためにも、若者定住住宅を増やす考えはないか。

岩崎憲郎町長

若者の定住対策の一環として、過去に2カ所で住宅団地造成を検討した経緯もある。さらに町が民間業者に土地を提供

地域おこし協力隊、集落支援員

一般質問

問 地域おこし協力隊、集落支援員に適切な指導を

答 地域のコミュニティの中で活動

三谷幸一郎議員

本年の4月から新しく4人の協力隊、支援員の方々が大豊を元気にするべく頑張っている。4人とも都会から来て戸惑うことの連続だと思われるが、町としての将来的なビジョン等適切なアドバイスや指導はできているか。

岩崎憲郎町長

地域おこし協力隊は、人口減少や高齢化等の進行為が著しい地方において、地域外の人材を積極的に誘致し、その定住・定着を図ることで、意欲

8月豪雨に関して

一般質問

問 国の直轄砂防事業のエリア拡大を
答 エリア拡大を要望する

渡辺則夫議員

今回の豪雨で、国が直轄で防災工事を行った地域ではほとんど災害が発生していないと町長は報告したが、これを機会に

直轄砂防事業のエリア拡大に努力すべきではないか。

岩崎憲郎町長

本町の地滑り指定区域



休耕畑開墾（大畑井）

は、国土交通省、農林水産省、林野庁などのエリアに区分されている。国土交通省の砂防事業は、高知県・徳島県・愛媛県の8市町村による四国直轄（吉野川・重信川・奈半利川）砂防事業促進期成同盟会を結成し、エリア拡大等を積極的に要望している。

一般質問

問 災害に対し支援やお見舞いの公表は
答 公表する

渡辺則夫議員

災害に対してさまざまな方々から支援やお見舞いがあつたようであるが、主なものは議員や町民に

公表すべきではないか。

岩崎憲郎町長

早急に議会や住民に対し公表する。

一般質問

嶺北地域での各種事業連携

問 各種事業において嶺北3町村との連携を
答 個性と特性を保ちながら連携していく

渡辺則夫議員

林業、観光、公共交通、民泊事業などにおいて、本町はもつと積極的に他の3町村と連携していく姿勢が大事ではないか。

岩崎憲郎町長

今までも連携を密にし、住民サービスを行っている。今後とも個性と特性を保ちながら連携していく。

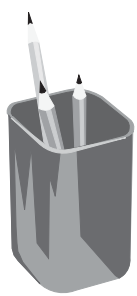
一般質問

問 町外職員初動体制は支障なかったか
答 支障ない

渡辺則夫議員

対策本部を設置した後、町外から勤務する職員の初動体制は支障なく行われたのか。

支障はなかった。



岩崎憲郎町長

住民に対しての対応に

一般質問

問 使用のルール作りが必要ではないか
答 講習会や研修会を行っているものの家庭内で使用のルール化が基本

渡辺則夫議員

使い方によっては、目に見えないいじめや、学力の低下もあるようである。専門家の話も聞き、生徒・先生・保護者の話し合いによる使用のルール作りが必要ではないか。

吉松英喜教育長

高知県警生活安全課から講師を招き、保護者を含めて講習会や研修会を行っている。長時間携帯電話を使用すると学力に影響があると言われてお



り、家庭内でも携帯電話の使用のルールを作っていたがのが基本と考えている。